

墨田区生活安全推進協議会資料



本所消防署・向島消防署

目 次

- 1 火災の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1～2
 - 東京消防庁及び墨田区内の火災件数等（令和元年中）
 - 墨田区内の建物火災件数（令和元年中）
 - 墨田区内の火災件数等（令和2年1月～6月15日）
 - 墨田区内の建物火災件数（令和2年1月～6月15日）
 - 墨田区内の住宅火災の死者発生状況（令和元年中）
 - 住宅火災の出火原因

- 2 住宅用火災警報器・・・・・・・・ P 3

- 3 救急の状況・・・・・・・・ P 4
 - 東京消防庁及び墨田区内の救急出場件数等（令和元年中）
 - 墨田区内の救急出場件数等（令和2年1月～6月15日）
 - 東京消防庁及び墨田区内の救急事故種別件数（令和元年中）

- 4 熱中症対策・・・・・・・・ P 5～6

1 火災の状況

1 東京消防庁及び墨田区内の火災件数等（令和元年中）

	火災件数(件)	焼損床面積(m ²)	死者(人)	傷者(人)
東京消防庁	4,089 (116)	18,302 (-302)	108 (22)	705 (-93)

墨田区合計	81 (1)	325 (83)	1 (-1)	11 (-9)
本所消防署	46 (6)	146 (120)	0 (-1)	7 (1)
向島消防署	35 (-5)	179 (-37)	1 (0)	4 (-10)

※ () は前年比を示します。

2 墨田区内の建物火災件数（令和元年中）

	建物火災の程度別件数(件)					建物以外の火災(件)
	小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	
墨田区合計	54 (-5)	1 (0)	3 (2)	9 (-7)	41 (0)	27 (6)
本所消防署	30 (-2)	1 (1)	1 (1)	6 (-2)	22 (-2)	16 (8)
向島消防署	24 (-3)	0 (-1)	2 (1)	3 (-5)	19 (2)	11 (-2)

※ () は前年比を示します。

3 墨田区内の火災件数等（令和2年1月～6月15日まで）

	火災件数(件)	焼損床面積(m ²)	死者(人)	傷者(人)
墨田区合計	39	156	1	15
本所消防署	19	67	1	8
向島消防署	20	89	0	7

4 墨田区内の建物火災件数（令和2年1月～6月15日まで）

	建物火災の程度別件数(件)					建物以外の火災(件)
	小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	
墨田区合計	28	0	2	6	20	12
本所消防署	17	0	0	4	13	2
向島消防署	11	0	2	2	7	10

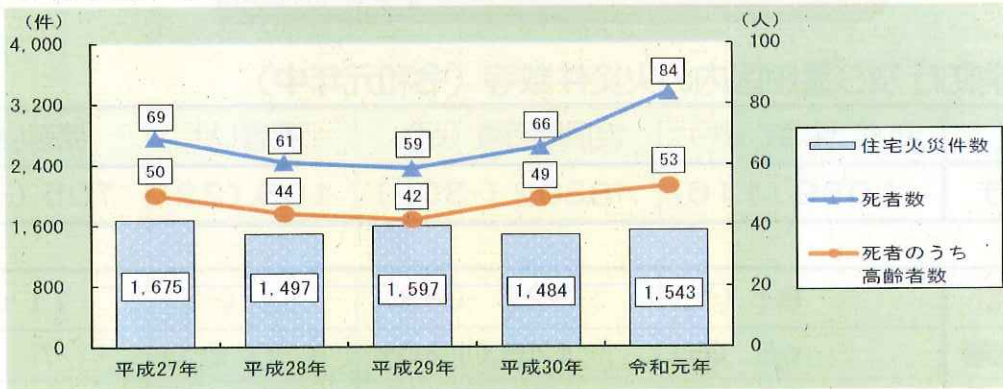
5 住宅火災の死者発生状況・出火原因

(1) 墨田区内の住宅火災死者発生状況（令和元年中）

(人)

	H27	H28	H29	H30	R1
墨田区合計	2	3	0	2	1
本所消防署	0	2	0	1	0
向島消防署	2	1	0	1	1

【東京消防庁 過去5年間の住宅火災件数と住宅火災による死者数の推移（自損除く）】



住宅火災の死者数及び高齢者の死者数は、最近5年間で最多となりました。東京消防庁管内では、住宅火災により84名の方が亡くなっており、昨年と比較すると18人増加しています。

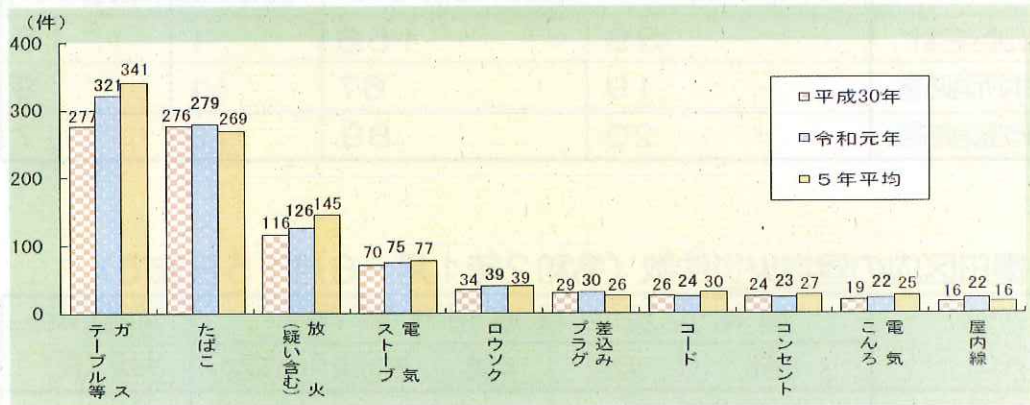
墨田区内は、令和元年中の住宅火災の死者は1名でした。

(2) 住宅火災の出火原因

東京消防庁管内で、住宅火災の主な出火原因は「ガステーブル等」が最も多く、前年より44件増加しています。

墨田区内は、「たばこ」、「電気こんろ」、「ガステーブル」の順に多くなっています。

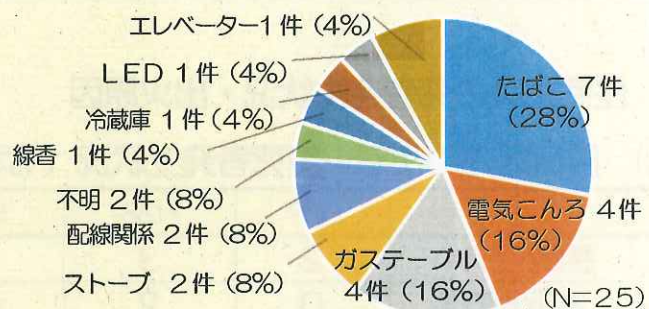
【東京消防庁管内 住宅火災の主な出火原因別発生状況（上位10位）】



【墨田区内】 住宅火災の出火原因の内訳

住宅火災の主な出火原因

たばこ	7件
電気こんろ	4件
ガステーブル	4件
ストーブ	2件
配線関係	2件



2 住宅用火災警報器

1 概要

住宅用火災警報器は、火災の煙や熱を感知して警報音で知らせてくれます。火災の早期発見に有効であり、逃げ遅れによる死者の発生防止や被害の低減につながります。

2 住宅用火災警報器の維持管理

・ 定期的な作動確認

点検ボタンを押すか点検ひもをひっぱり、定期的（※1）に作動確認をしましょう。

作動確認をしても警報器に反応がなければ、本体の故障か電池切れです。（※2）警報器の本体又は電池を交換しましょう。



定期的な作動確認

・ 古くなったら交換

火災警報以外の警報が鳴った場合

本体の故障か電池切れです。（※2）警報器本体を交換しましょう。



古くなったら交換

- ※1 住宅用火災警報器の電池の寿命の目安は約10年とされています。警報器の作動確認は、春秋の火災予防運動の時期に行うなど、定期的に実施してください。
- ※2 故障か電池切れか分からないときは、取扱説明書を確認するか、メーカーにお問合せください。なお、電池切れと判明した警報器が設置から10年以上経過している場合は、本体内部の電子部品が劣化して火災を感知しなくなることが考えられるため、本体の交換を推奨しています。

3 住宅用火災警報器の交換時期

平成22年4月に設置義務化され、設置後10年をむかえる時期です。古くなると、電子部品の寿命や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。

10年を目安に、住警器の機器本体ごとの交換を推奨しています。



ピッ…ピッ…と音が鳴ったり、ランプが点滅するのは故障や電池切れを知らせるサインです。

4 住宅用火災警報器の不適切事案

事例	注意点
住宅用火災警報器（煙式）が、神棚の上に上向きで置いてあった。	火災の際、煙は天井・壁に滞留します。早期に煙を感知するよう、住宅用火災警報器は壁や天井に取り付けてください。
壁に設置した住宅用火災警報器にほこりが溜まらないよう、ビニールで覆ってあった。	煙式の警報器は感知しなくなるため、火災の発見が遅れますので、大変危険です。 （室内で煙の出る殺虫剤を使用するときは、住警器がならないよう、覆うこともあります）

3 救急の状況



1 東京消防庁及び墨田区内の救急出場件数等（令和元年中）

	出場件数（件）	搬送人員（人）
東京消防庁	825,929 (7,867)	731,900 (5,472)

墨田区合計	18,209 (166)	16,057 (115)
本所消防署	9,257	8,144
向島消防署	8,952	7,913

※（ ）は前年比を示します。



2 墨田区内の救急出場件数等（令和2年1月～6月15日まで）

	出場件数（件）	搬送人員（人）
墨田区合計	7,310 (-875)	6,267 (-1,038)
本所消防署	3,405 (-670)	3,021 (-627)
向島消防署	3,905 (-205)	3,246 (-411)

※（ ）は前年同時期との比を示します。

3 東京消防庁及び墨田区内の救急事故種別件数（令和元年中） （件）

	急病	一般負傷	交通	その他
東京消防庁	550,306	147,601	45,696	82,326

墨田区合計	11,954	3,170	1,072	2,013
本所消防署	5,942	1,680	644	991
向島消防署	6,012	1,490	428	1,022

4 熱中症対策

1 夏本番前から熱中症予防対策を！

東京消防庁管内において、令和元年6月1日から9月30日までの4か月間に、熱中症（熱中症疑い等を含む。）により5,634人が救急搬送されています。

例年、梅雨明け後の最初に気温が高温となる日に、急激に救急搬送人員が増加する傾向があります。

令和元年は、梅雨が明けた7月24日頃から熱中症による救急搬送人員が増加し、8月は過去5年の月別を比較して、過去最高の救急搬送人員となっています。

2 令和2年度の熱中症予防行動について

例年と大きく異なるのは、新型コロナウイルスが出現したことです。十分な感染症対策を行いながら、例年以上に熱中症予防にも留意する必要があります。

「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや3密を避ける等の「新しい生活様式」が求められています。このような中での熱中症予防行動のポイントは、以下の通りです。

1 暑さを避けましょう

冷房中でも扇風機や窓開放によって換気を確保する必要があります。室内温度が高くなるので、エアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。



2 適宜マスクをはずしましょう

夏季の気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。

屋外で人と十分な距離（2m以上）を確保できる場合は、熱中症のリスクを考慮し、マスクをはずすようにしましょう。

3 こまめに水分補給をしましょう

マスクを着用しているときは、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめな水分補給を心掛けましょう。

4 日頃から健康管理をしましょう

日頃から体温測定・健康チェックをし、体調が悪いと感じた時は無理せず自宅で静養するようにしましょう。

※ 参考文献：令和2年度の熱中症予防行動（環境省 厚生労働省）より

新型コロナウイルスと熱中症対策を両立する「3とる」も、医師により推奨されています。



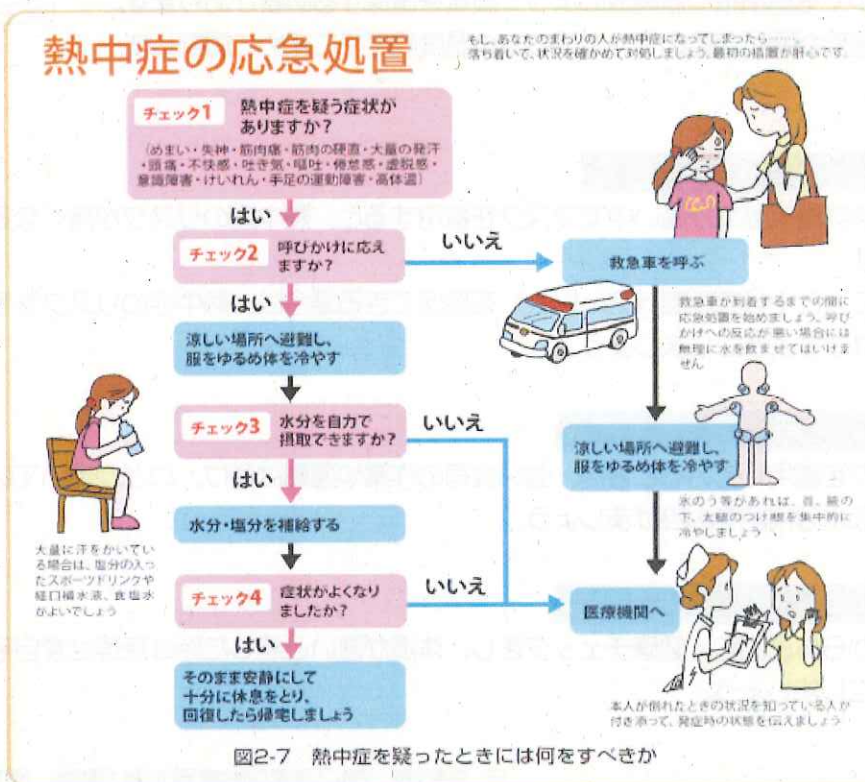
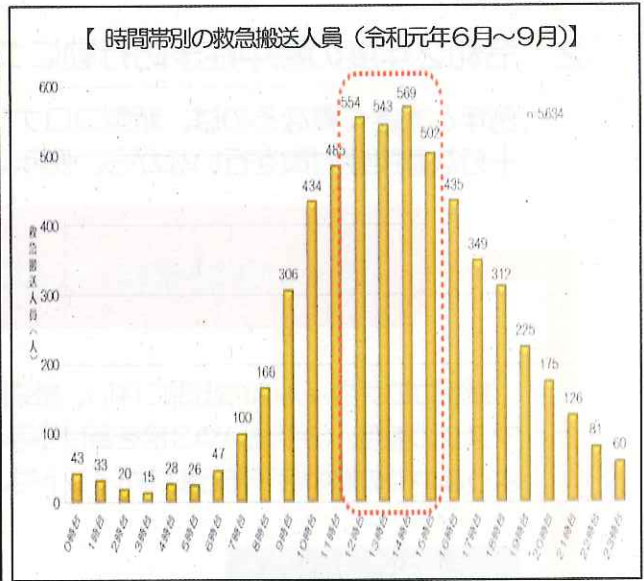
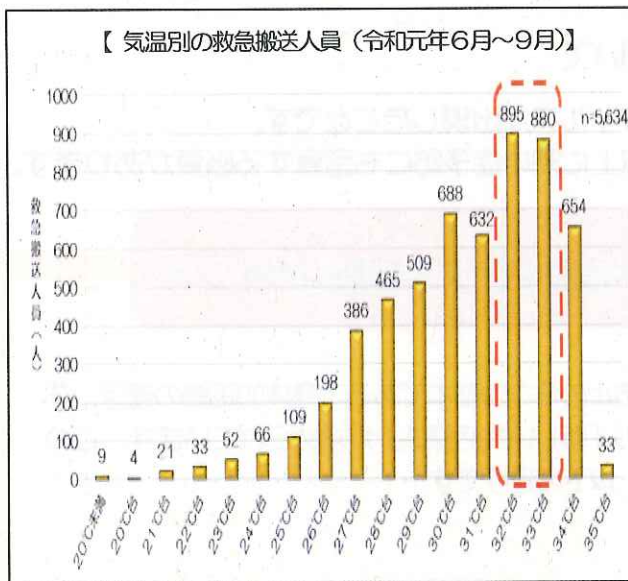
- ◆ 人との距離を「とる」
- ◆ 人との距離を取ったうえで、マスクを「とる」
- ◆ 水分を「とる」



3 気温別・時間帯別の救急搬送状況

気温が32℃台及び33℃台は、800人以上の人が救急車で運ばれ、気温が高いほど搬送人員が多い傾向がみられます。

時間帯を見ると14時台が569人と最も多く、次いで12時台が554人でした。特に12時台から15時台は、500人以上と多くなっています。



参考文献：熱中症 環境保健マニュアル2018（環境省）より